

トップ1%論文表彰

所属	補職	氏名	対象論文名	学術誌名	発表年	論文の概要	URL
医学研究科	教授	野尻 俊輔	Randomised, multicentre prospective trial of transarterial chemoembolisation (TACE) plus sorafenib as compared with TACE alone in patients with hepatocellular carcinoma: TACTICS trial	Gut	2020	本試験では、新たに設定されたTACE特有のエンドポイントを用いて、初回TACEの前にソラフェニブを併用することで、経動脈的化学塞栓術（TACE）とソラフェニブの併用療法の有効性と安全性をTACE単独療法と比較した研究である。	https://researchmap.jp/nojiri
医学研究科	教授	森田 明理	Efficacy and safety of secukinumab in patients with generalized pustular psoriasis: A 52-week analysis from phase III open-label multicenter Japanese study	Journal of Dermatology	2016	全身性膿疱性乾癬（GPP）は、ほぼ全身を覆う無菌性の膿疱の存在と、発熱などの全身症状を特徴とする重篤な炎症性皮膚疾患です。セクキヌマブは、完全ヒト型抗インターロイキン-17Aモノクローナル抗体で、日本では尋常性乾癬および関節症性乾癬の適応を取得していますが、GPPについては未検討です。本試験では、日本人のGPP患者12名を対象に、セクキヌマブの単剤投与および併用投与による有効性と安全性を評価した研究である。	https://researchmap.jp/read0052839/?lang=japanese
医学研究科	教授	松川 則之	Paranodal dissection in chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy with anti-neurofascin-155 and anti-contactin-1 antibodies	Journal of Neurology, Neurosurgery and Psychiatry	2017	慢性炎症性脱髄性多発神経炎（CIDP）は単一病態でない可能性が推測されている。CIDP患者の一部にランビエ絞輪パラノードに局在する軸索-グリア接合部蛋白に対する自己抗体を有する一群が存在する。本研究では、neurofascin-155およびcontactin-1抗体を有する患者では、古典的に言われるマクロファージ浸潤やオニオンバルブを有さない脱髄病変が確認された。	—